2022.01.30. 神はどのように困難を乗り越えさせるのか
ヘブル人への手紙 13 章 22 節～25 節
JD ファラグ牧師

おはようございます。日曜日の朝の第二礼拝にようこそ！　日曜日の朝は二つの礼拝があります。第一礼拝は毎週行っている「聖書預言・アップデート」です。そして第二礼拝は、神の御言葉を一節ごとに読んでいく説教です。今日、私たちはヘブル人の手紙を終えることになります。主の御心ならと言うべきですが、聖書箇所は 13 章 22 節から 25 節まで、この書の終わりまでです。それでは、ここにいらっしゃる方で、可能な方はご起立をお願いします。私が朗読しますので、ついて来てください。無理な方は、座ったままで結構ですので、ついてきてください。ヘブル人の手紙の著者は、22 節から、聖霊によってこう書いています。

ヘブル 13
22 兄弟たちよ、あなたがたにお願いします。このような勧めのことばを耐え忍んでください。私は手短に書いたのです。
[それは内緒です。](笑)
23 私たちの兄弟テモテが釈放されたことを、お知らせします。もし彼が早く来れば、私は彼と一緒にあなたがたに会えるでしょう。
24 あなたがたのすべての指導者たち、また、すべての聖徒たちによろしく。イタリアから来た人たちが、あなたがたによろしくと言っています。
25 恵みがあなたがたすべてとともにありますように。

よろしければ、ご一緒に祈りましょう。私たちの理解に神の祝福があることを祈ります。
天の父よ、主よ、本当に、本当に、感謝します。主よ、私たちは今朝、あなたがお与えくださった御言葉に、とても感謝しています。主よ、私たちは、あなたの御言葉すべてに理由があることを知っています。それは霊感によるもので、私たちを戒め、励まし、時には正し、必要であれば叱責するためのものです。主よ、今日、あなたがヘブル人への手紙の著者を促し、あなたの民に対し、祝福と輝かしい宣言で終わらせたように思えます。ですから、主よ、私たちは、あなたの御霊が今日、あなたの教会である私たちに語られることが何であるのか、耳を傾けたいのです。ですから主よ、どうかお語りください。あなたのしもべは聞いています。イエスの御名で祈ります、アーメン、アーメン。ご着席ください、ありがとうございます。今日は、人生の苦難を乗り越えるために、神はどうされるのか、もっと重要なのは、神が選択されるその方法についてお話ししたいと思います。今日は、人生の苦難を乗り越えるために、神はどうされるのか、もっと重要なのは、神が選択されるその方法についてお話ししたいと思います。この素晴らしいヘブル人への手紙を終えるにあたり…私は聖書のすべての書についてそう言っていますが…、本当に素晴らしい書です。ヘブル人の手紙の著者から、このような、心からの思いやりが伝わってきます。それは本当に心からのものであり、著者の心から、読者の心へのものです。私たちが今読んで、著者がこのクリスチャンたち、つまり兄弟姉妹たちを、本当に深く気にかけていたという印象を、強く持ちます。著者は彼らを深く愛しており、テモテと一緒に彼らに会いに行きたいというのが、彼の切なる願いであったのです。これが、聖霊によるこの手紙の著者は使徒パウロでなければならない理由の一つであると、多くの人が考えています。お気づきかと思いますが、私はこの話題から遠ざかってきました。しかし、今日は話題にしています。あなたは私を見て、「どういうこと？その話題を教えて。」分かりました、私はこの書を学び

始めたとき、この話をしました。神はその主権と英知において、この書の著者が誰であるかを隠す必要がある、とお考えになったこと、そしてその理由について述べました。多くの聖書教師や聖書解説者の間で、様々な憶測が飛び交っています。私もその一人でしょうが。しかし、それは使徒パウロではないかと考えられています。確かにこの箇所は、著者がパウロであったことを示しているようです。誰なのかは他にも考えがありますが、それはどうでもいいことです。なぜどうでも良いかというと、この手紙を書いたのは聖霊だからです。著者は、聖霊に促され、この手紙の言葉を書くための道具、器、書き手にすぎませんでした。そして、この手紙をこのように終わらせるために...、つまり、このために、私は 22 節から 25 節を、今日のために取って置いたのです。私は本当にヘブル人の手紙を終わらせることを、急いでいません。なぜなら、ヘブルの後に何が来るか知っていますから。これも話しましたが、次は、ヤコブの手紙です。もし、ヘブル人の手紙に砕かれたなら、神の御言葉の権威に基づいて、ヤコブの手紙がとどめを刺すと断言します。だからこそ私は、微妙に、間接的に、無意識に、急がないのかもしれません。ところで、ヤコブの手紙 1 章ですが、予習して読んでいる人は、その内容を知っていますよね？　”試練”です。実際、聖書のヘブル人への手紙第 13 章を開くと、その隣にヤコブの手紙があるはずです。今は読まないでくださいね。でも、私はこれは大好きなんですよ。自分に正直になるなら、書の終わりに来たとき、それが形式的なものになり、なんとなく目を通し、読み終わり、先に進んでしまうのではないでしょうか。ちょっと待ってください。そう急がないで。神の御言葉のすべては、理由があって書かれています。このヘブル人への手紙第 13 章の最後の節にも、聖霊が私たちに示したいものがあります。ヘブル人の人生の苦難に関して、特に知っておいてほしいと願っているのです。これから見るように、このヘブル人クリスチャンたちが、本当に葛藤していたことを理解しなければなりません。彼らはとても落胆していました。彼らの生活の苦しさは、現代の私たちには想像もつかないほどのものでした。 この手紙が彼らに書かれた当時、もしあなたがクリスチャンで、私たちが今、歌ったり話したりするように、イエスに従うことを決めたとしたら、それはあなたの友人、仕事、生活、すべてを犠牲にすることになるということを知っておかなければなりません。先の見通しをつけなければなりませんでした。彼らは非常に高い代償を払っていたのです。 とても、とても高い代価でした。そしてこれこそが、これから見ていくように、著者が本当に彼らへの励ましを書いている理由だと、私は信じています。私は四つ以上の方法を見つけました。あなたはもっと見つけるかもしれませんが、神が私たちに苦難を乗り越えさせるために用いられることのできる、私たちが疑いなく確信できる四つの方法です。ところで、良い知らせは、神が私たちを苦難から乗り越えさせてくださるということです。神が乗り越えさせて下さいます。渦中にいるときは、そうは思えず、そう感じないでしょう。しかし、神は何があっても、どんなことであっても、あなたを乗り越えさせてくださいます。さて、その一つ目の方法は 22 節にあります。シンプルに「励まし」です。著者は、自分のために祈るように促した後、今回だけ彼は、”手短なこの勧めの言葉”を耐え忍ぶように、と促しています。これは、私の心にぴったりの人です。手短？！　13 章もあって？　そのうちのいくつかの章は、元々の手紙には章はありませんでしたが、そのうちのいくつかの章は、つまり.....皆さんはそこを読んで、乗り越え、そこを生き抜いて、それを証明する傷跡がありますね。例えば第 6 章。4 章も、実際には 5 章、6 章、7 章、8 章、9 章...書を通してずっとです。すごいですね。そうして、彼はこう言っています。
「手短な勧めのことばを受け入れるよう、強く願います。」その意味は、「もっともっと書きたいことがたくさんあります。これは、あなたに書きたかったことの全部ではありません。」興味深いのは、
この "exhortation/勧め"という言葉です。もし皆さんが私と同じなら、…そうだと思いますが。私はこの

「勧め」という言葉が、勧めを受ける側にいるときは、特に好きではありません。というのも、この言葉はとても矯正的に聞こえ、とても規律的に聞こえるからです。 「あなたに強く勧めます。」「あぁ…！私が何がしましたか？」新約聖書の原語のギリシャ語では、この言葉は、実際にはそういう意味ではありません。意外かもしれませんが、実はこれには、”説教”という意味が込められていて、実際に、勧めたり、励ますための説教なのです。書き手がここで言っていることは、「勧める」という言葉を「励ます」に置き換えると、よりしっくりくるのです。そしてそれは、手紙の書き手を通した、神の御心です。
「耐え忍んでください。私はあなたに強く求めます。」「私のために祈るようにお願いしましたが、今度は、短い励ましの言葉を耐え忍ぶよう、強く求めます。」なぜ書き手は、彼らを励まそうとしているのでしょうか？　まぁ、深遠な意味がありますが、彼らは落胆していたんですね。それが理由です。主は、それを知っておられ、彼らが励まされる必要があることを知っておられたのです。聖書を通して、何度も…私はヨシュア記 1 章のことを考えます。その第一章だけでも、なんて素晴らしい章なんでしょう。そこでは、モーセに代わってヨシュアが民を導きます。重大な責任です。ヨシュアは、怯え、おののき、恐れています。神は何とおっしゃってるか？「恐れてはならない。おののいてはならない。」聖書の中には、「落胆してはならない」と書かれている箇所がありますが、それは彼らが落胆していたからなのです。これはご存知の通り、「Bible for dummies/愚か者でもわかる聖書」と呼ばれるものです。私が愚か者になります。しかし、これは真実です。「恐れるな。」なぜそんなことが書いてあるのでしょう？　なぜなら、彼らが恐れていたからです。「恐れてはいけません。 怖いのはわかっています。恐れてはいけません。」その理由はこうです。 これこそが、私が神の御言葉を愛する理由です。聖書の中には、恐れてはいけない理由を語らずに、「恐れるな」と書いている箇所はありません。もし、その箇所にこう書かれていたらどうでしょう。「恐れるな！神であるわたしがそう言ったのだから。」「分かりました、もう恐れません。」「落胆するな！わたしが神であり、わたしがそう言うのだから。」違います。「落胆してはならない。」その理由はこうです。「恐れてはならない。」何も恐れる必要がない理由があります。「落胆してはならない」
これは、「私たちは落胆することがない」という意味ではありません。ただ、落胆に負けてはいけないということです。恐れも同じです。私たちが恐れを抱かないわけではありません。恐れに囚われてはならないということです。著者は、この手紙の目的、そもそもなぜこれを書こうと思ったのかを、彼らに思い出させているのです。それは、彼らが本当に苦しんでいたからこそ、彼らを励まし、勇気づけるためだったのです。彼らは本当に落胆し、本当に傷ついていました。彼らはすべてを失いました。友人を失い、家族からも勘当されていました。さらに、家族からユダヤ教に戻れという誘惑と圧力を受けていました。それはどれほどの葛藤でしょうか。当時の初代教会では、クリスチャンになることは、ある意味では死刑宣告でした。 だから、著者は彼らを励ましたいと思っていて、これは短い説教や励ましの言葉なのです。なぜか？　彼らが、落胆していたからです。では、何が言いたいのか？　私が言いたいのはこれです。神は、私たちが人生の苦難を乗り越えるために、励ましを用いられます。それは、私たちが考えているような方法ではなく、また、私たちが望んでいるような人からでもないことがあります。 確かに、それは神からの御言葉です。しかし、時には神は、キリストの兄弟姉妹を用いて、あなたに言葉をかけるかもしれません。繰り返しになりますが、私たちは「勧め」を間違えています。なぜなら、兄弟があなたに近づき、「あなたに勧め/忠告がある！」と言ったら、あなたはどれほど喜べるでしょうか。「下がれサタン。」
そうですね？　忠告は聞きたくない。もし、その兄弟が私のところに来て、「あなたに励ましの言葉があります。」と言ったらどうでしょう。「そうなんですか？」「ええ」あぁ、励ましの言葉は嬉しいです。時

には、言葉のない励ましもあります。ただ抱きしめたり、背中を叩いたり、笑顔を見せたりするだけです。率直にこう言うことをお許しください。私たちは皆、本当に偽ります。私を含めた、すべての人、という意味です。このような場合、私たちはいつも最高の顔（笑顔）で教会に来ますよね。実際、子どもたちへ叫び終わった後、駐車場でその笑顔を装いますよね？　私が言っている顔は、こんな笑顔のことです。「主をたたえます。」子どもを怒鳴りつけ、妻と喧嘩したばかりなのに、今は「主をたたえます」？　それは.....違います。教会に来ると、こんな感じです。「やあ、元気かい？」「ええ、主をたたえます！」本当に…？　時々、私は人々にこう言います。「やあ、元気？　」ー「元気よ。」「本当はどうなんだい？」ー「あぁ、あなたには分からないわ...」ただ通り過ぎるだけの時に、「やあ、元気？」と言うのはどうでしょう？　相手が「絶好調よ、あなたはどう？」と言ってくれることを期待していて、そうでなく、「あのね、私はそんなにうまくいってないの、ちょっといい？」と言われると、「ああ、その反応は予想していませんでした!」もしかしたら、神があなたをその場所に、その時間に置かれたのは、彼らが励まされるために、あなたを用いたいからかもしれません。彼らには励ましが必要なのです。なぜなら、彼らが置かれている状況を少しでも知ったら...、彼らが抱えている苦労、経験している困難、生きていることの難しさを、理解することになるからです。繰り返しになりますが、それは長い時間をかける必要はなく、小さなものの積み重ねです。それはただ、「主はすべてを知っているんだよ、主はすべてを知っているんだよ。」 という慰め、励ましの言葉だけかもしれません。「元気をだしてください、神がしてくださいます。大丈夫です。」「ああ、でも仕事をなくしたんだ。」「神はご存知です、神は知っておられます。」「ええ、でも私の息子、私の娘....」「ええ、神はご存知です。」「あなたの息子や娘に関しては、神はあなた以上に彼らを愛しておられます。もし道を踏み外した娘や息子であったとしても、神は、あなた以上に彼らが神と正しい関係になることを望んでおられるのです。想像してみてください。」「神はご存知です。」「あぁ、でも本当に辛いのです。」「神はご存知です。」「ええ、でも医者はこう言ってます。」「神はご存知です。神は知っておられます。元気をだしてください。」

さて、2 つ目の方法は 23 節にあり、それは「希望」です。聖霊を受けた著者がテモテに言及し、彼が釈放されて会いに来ると伝えるのは、とても興味深いことです。聖霊を受けた著者がテモテに言及し、彼が釈放されて会いに来ると伝えるのは、とても興味深いことです。さて、なぜ.....つまり、なぜ著者が.....テモテがおそらく牢獄から釈放され、彼らに会いに行く途中に、なぜ著者がそのことを彼らへの手紙に書くことになったのかということです。答えは？　彼らに希望を与え、期待をもたすためです。食べ物がなくても何日かは生きられるし、水がなくても何日かは生きられるが、希望がなければ数秒も生きられないと言われています。 神はそれをご存知です。では、その希望はどのようにして得られるのでしょうか？　確かに、信仰は聞くことによって得られ、神の御言葉を聞くことによって得られます。そして、信仰とは何でしょうか？

信仰とは、望んでいることを保証し、目に見えないものを確信（強い言葉です）**させるものです。（ヘブル 11:1）**

起こるとわかっているが、まだ起こっていないことを信じることです。それが信仰であり、希望であり、希望はとりわけ神の御言葉を聞くことから始まります。しかし時には、神が、テモテを送ってくれることもあります。私たちは使徒パウロを通してテモテをよく知っていますよね。まず第一に、パウロが彼に手紙を書いた当時、彼は若い牧師でした。パウロがリステラにいた時、テモテと出会いました。テモテは主を愛し、主に仕える両親と祖父母のもと、神を敬う家庭で育ちました。このテモテですが、私は彼に会う

のが待ち遠しいです。ところで、それはとてもとても近いうちになると思います。もし、あなたも彼に会いたいのなら、まず私が会ってからにしてください。私にとってテモテは、一緒にいたいと思うような人物の一人なのです。 私が何を言っているのか分かりますか？　テモテが部屋に入ると、「あぁ、テモテが来た ！」と言われるような人物です。反対にしてみましょう。人によっては、部屋に入って来たとき、「うわ.....」と思うことがありますよね。つまり、彼らはあなたから生気を奪い、希望を奪うのです。つまり、彼らはそんな感じだったのです。著者は彼らに、「テモテが釈放され、会いに来る。聞いたか？元気をだそう！」と。そして、テモテが来ると。。。「ああ、私も彼と一緒に行けたら良いですが、そうなるかもしれませんが、主はご存知です。」しかし、そのことが彼らに、このような希望を与えることができます。私はこう考えています。私たちは、何も期待するものがないときに、絶望や絶望感に陥りやすいものです。大きなことは必要ありません。つまり、「彼がそっちに向かっているよ 。」というような、ちょっとした事でいいんです。「ああ、私は彼がここに来るのをとても楽しみにしています。私はテモテを愛していますし、テモテが私を愛していることも知っています。そして、彼がここに来たとき、私たちは一緒に交わりを持つことになるでしょう。」そこから生まれるのは、この励ましと希望なのです。なぜなら、自分たちの持つ希望を思い出さなければならないというのは、真実ではないですか？　そして、ここに、もう一つの勧め/励ましがあります。ペテロが聖霊によって書いているのは、自分の中にあるその希望を誰にでも答えられるよう準備しておく必要があるということです。（Ｉペテロ３:１５参照）
希望、希望、希望。希望を持つことの重要性をいくら強調してもし過ぎることになるとは思いません。そして他の人に、希望を与えることです。希望があります。主にはいつも希望があります。あなたの希望は、主にあります。ええ、私の状況は絶望的ですが、しかし、神は私の希望です。私は、この方に信頼を置いています。私の周りのすべてが.....いや、今の世界で起きているすべてのことを考えれば、言うまでもありません。聖書預言アップデートでお話したとおりです。冗談でしょう？　つまり、希望がないのです。しかし、私は願っていて...何て言えばいいんでしょう.....。あなたの希望が、この世界や、物事が良くなること…ではないことを願っています。もう一回やってみます。全く新しいレベルで挑戦してみます。あなたの希望が、ある男が政権を握ることではないことを願っています。「おぉ...言いましたね！」はい、言いましたよ！「この男を大統領にすれば、すべてが良くなる。それがアメリカを救うための希望なんだ。」「うぉー、そこまで言いますか、おお、そこまで...」ええ、確かに言いました。そんな感じです。あなたの希望は、そんなとこにあるのですか？　もしそれがあなたの希望ならば、あなたは哀れな存在だと、愛情を持って、正直に言います。私の希望は主にあります。ええ、状況がおかしくなっているのはわかっています。日を追うごとに、悪い方向に向かっています。でも、私の希望は主にあります。ねえ、もしかしたら誰かが、あなたからそれを聞きたいのかもしれません。もしかしたら、彼らは御言葉に触れていないので、聞くことはないかもしれません。もしかしたら、教会で交わりもしないので、聞くこともないでしょう。それはもちろん、説教壇の後ろの牧師が御言葉を説いていても、彼らがそれを聞いていないことが前提です。時に神は、キリストにある希望を思い出させるために、彼らの人生にあなたを用いるでしょう。彼らには希望が必要です。希望を失っている彼らには、希望が必要なのです。私たちはその希望を持っています。私たちが持っている希望は主にあります。
3 番 、これは初歩的すぎますか？　そうでないことを願っています。24 節、ここにもあります。これはどうでしょう？「愛」です。励まし、希望、愛。いい感じになってきましたよね。励まし、希望、愛。いい感じになってきましたよね。これは、神の御言葉の中でも、当時の文化的背景ついて知っておく必要

がある箇所の一つで、実際には、現代の中東にも当てはまります。著者は基本的に、互いに挨拶を交わすよう励まし/勧めており、彼はイタリアからの挨拶を送っています。当時の文化では、現代のように、誰かに「挨拶をする」と言うと、それは、全く異次元の話になることを理解しなければなりません。 私たちは、「あの人たちに宜しくと伝えて。」と言いますよね。 「分かったよ！」「〇〇がよろしくだって。」それだけです。違います。この当時は、そうではありません。誰かに挨拶をするということは、私の民族であるアラブ人の中近東文化に通じるものがあります。彼らには、挨拶の仕方があるのです。 つまり、パウロが言うように、抱擁と、聖なる口づけをするのです。ちなみに口づけは、1 回だけじゃなくて、最低でも 2 回です。ハグして、片方にキス。もう片方の頬に行き、キス、2 回目のは、良くなかったですね....（笑）時にはそれを何回も、何回も、何回も繰り返し、あなたは、「もう十分だ、私を愛しているのはよく分かった！」「ええ、そうです。あなたを深く、深く愛しています。」ところで、木曜日の夜、イザヤ書の学びの後、聖餐にあずかることになっています。今週の木曜は 62 章かな。そして、挨拶には、聖餐のお祝いにルーツがあります。中東では、一緒に食事をするときは、驚くべきことに、それは、common union（共通の結合）/communion（聖餐式）であり、一つになる交わりです。そして、同じパンから食べ、同じ杯から飲むのは、あなたの中にあるパンが私の中にあるという思いがあるからなのです。同じ杯で飲むので、私たちは一つであることの証しなのです。子どもの頃、父や叔父がみんなで座っていて、中東の風習の一つである巨大な米の山を見て、衝撃を受けたのを覚えています。お腹すいてないですか？私はすいています。ここに巨大な米の山があります。そして、この人たちは手を取って、ご飯の中に突っ込んで、おにぎりを作って食べ始めるのです。そして、彼らは再び手を突っ込むのです。二度漬けと同じようなものです。問題ありません。あなたの問題は何ですか？「まあ、いや...、ばい菌が...」いやいや、関係ないです。あなたの中にある菌は、私の中にある菌なのです。私たちは 1 つであり、問題ではありません。中東では誰かとパンを食べれば、死ぬまで、一生忠誠を誓うということも理解しなければなりません。中東では、もしあなたがパンを裂くなら…ここで 1993 年の 9 月がフラッシュバックします。覚えている人は覚えていると思いますが、9 月にホワイトハウスの芝生で、当時の大統領ビル・クリントンとともに、ヤセル・アラファトとイツハク・ラビンが署名し、今では悪名高いオスロ平和協定に同意していたのです。1993 年 9 月、気まずい雰囲気の中、握手をしてそれで終わりました。特にアラブ人にとっては、何の意味もなかったのです。中東では、どうやって取引を成立させるか知っていますか？　食べるのです。まさにそこなんです。食べることが全てなのです。食卓に座って、他の人とパンを食べるとき、それで決まりです。絆が生まれるのです。そして、この愛の絆は、互いの愛の表現なのです。そして、それは兄弟愛です。この手紙の著者が、本当に、本当に、彼らを愛していたということに触れずに、最後の節に進むことはできません。そして悲しいことに、私たちはその言葉を投げかけ、本当に一般的にしてしまう時代に生きていると思います。特に「愛」という言葉はそうです。もし私が 「ヘイ、愛しているよ 」と言ったら、「私も愛してるわ」あるいは、もっと踏み込んで、「もっと愛しているよ」と言うこともあります。「いいえ、私はあなたをもっと愛している」と、何度も言い返すのです。「もっと愛しているよ！」さて、「好き」と言う方が、「愛している」と言うよりパンチが効いている場合もありますね。例えです。私たちは「神はあなたを愛しています」「イエスはあなたを愛しています」と言いますね。わかっています、神は愛です、神が愛を持っているのではなく、神が愛なのです。わかっています、知っています。でも、もし私が「ねえ、神はあなたのことが好きなのです」と言ったらどうですか？「！神が？神が私を好きなのですか？　私を愛してるのは知ってるけど、私のことを好きでもあるの？」ええ、主はあなたが好きで

すよ。お互いにはどうですか？「ああ、私たちは互いに愛し合わなければならない。」つまり、それは律法の集大成ではないでしょうか？「あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい。」「私は自分を愛していないので、隣人を愛することはできません...」いいえ、あなたは自分を愛しています。それは問題ではありません。話がそれました。でも、誰かに向かって、「私はあなたを愛しているだけでなく、あなたのことが本当に好きです」と言うのはどうでしょう。「そうなの？ああ、それなら私もあなたが好きです。」誰かに嫌われていると聞くと、「そうですね、私もあまり好きではありません」と言うのが本当のところではないでしょうか。それは私たちの罪の性質です。人間の本性です。主は互いに愛し合うことを望んでおられます。そして、この教会はとても愛に満ちているという印象があります。この手紙には、コリント教会への手紙にあるような叱責がないのが特徴的ですよね。つまり、叱責に満ちているのです。痛々しいです。コリント人への手紙第一、第二を読んだことがある人は覚えていますか？　ほぉ〜、叱責に次ぐ叱責で、息つく暇もありませんでしたが、ここはそうではありません。彼らはすでに正しいことをしていて、著者が言っているのは、「あなた方がやっていることを続け、踏ん張って、元気を出してください。大変なのは分かります。」ということなのです。彼らはすでに互いに愛し合っていました。そしてこれは、私たちがイエスの弟子であることを知るためのリトマス試験ではないでしょうか。救い主ご自身の言葉です。

「あなたがたが互いに愛し合うことによって、あなたがたがわたしの弟子であることを人々は知るようになるのです。」（ヨハネ１３:３５参照）

それでわかるのです。「あなたがわたしの弟子として測られる基準は、あなたが互いにどう接し、どう愛するかなのです。互いに愛し合いなさい。」深く愛しなさい、とパウロはエペソ人への手紙に書いています。コリント人への手紙に話を戻します。これに関して最後にもう一つ。本当に大変なことですが、そこで起きていたことなのです。主の晩餐である聖餐式のことを、彼らは親しみを込めて、「愛餐会」と呼んでいましたね。当時、奴隷として働いていた人の中には、一週間で唯一の食事だったという人もいたようです。そのコリント教会には派閥があり、ある兄弟姉妹は一緒に食事をすることを許さないので、彼らは飢えていました。もう一方の派閥は、主の晩餐で食べ物をむさぼり、ぶどう酒に酔っていたのです。パウロは彼らにこう言わなければなりませんでした。「コリントのあなたの教会には、なぜ病気になる人がたくさんいるのか、不思議に思ったことはありませんか。」「なぜ教会で多くの人が死んでいるのか、その繋がりを考えてみたことがありますか？」「なぜかわかりますか？あなたがたはキリストの体を見分けられていません。キリストの体を不当に扱っています。そして、あなたがたがキリストの体にそうするとき、キリストにもそうしているのです。」繰り返しますが今週の木曜日のことです、今、思い出しました。イザヤ書 62 章 9 節です。それは木曜日の教えの準備の時に、ページから飛び出してきたのです。イザヤは、「私たちが苦しむときには、主も苦しんでおられる。」と書いています。（イザヤ６３:９参照）

そんなことを考えたことありますか？　主は頭ですよね。私たちはキリストの体であり、イエスは体の頭なのです。だから、体が苦しんでいると、その苦しみを主は感じられます。ですから、私たちがキリストの体である兄弟姉妹を粗末に扱うことは、主を粗末に扱うことになるのです。それが、彼が言っていることなのです。その対極にあるのが、互いに愛し合うことなのです。私たちが互いに愛し合うとき、キリストの兄弟姉妹に愛をもって接するとき、私たちはキリストに対し、そのように接しているのです。そして逆に、そうでないときは、主を粗末に扱っています。それは、主に対して行っているのです。さて、この最後の 1 つのために十分な時間を取っておきたかったのです。つまり、この 25 節の最後の 5 つの言葉

が、見事に、壮大に、この手紙全体を一言でまとめているのです。一言で、「恵み」、恵みです。恵みとは、その性質上、定義できない、計り知れない、理解できない言葉の一つであり、私はこの書、そしてそれに伴う説教を終えるのに、神の恵みほどふさわしい方法は思いつきません。ついて来てくださいますか？恵みに関して、私は聖霊の助けによって、最善を尽くしたいと思います。私たちは「神の恵みによって」と、決まり文句のように投げかけます。あなたは自分が何を言っているのか分かっていますか？「神の恵みによって」？　これについてはどうでしょう。「神の恵みがなければ、私もそうなっていただろう」「恵み」という言葉の持つ意味の表面的な部分にさえも触れていないのです。私たちは恵みによって救われたのであり、信仰による恵みによって救われたのです。では、さらに考えてみましょう。恵みによって救われたのなら、恵みによって生きるのも当然ではないでしょうか？　これはどうでしょう？　私たちは恵みを示していますか？　ああ、ちょっと待ってください。恵みを示すとはどういうことか、解説していただけますか？　なぜなら、私は恵みを示めされるのは好きだからです。「主を讃えよう、神の恵みを」ですね？　では、自分に与えられた恵みで、誰かに恵みを与えるのはどうでしょう？　私はこのように言われたことがありますが、おそらくあなたも同じように言われたことがあるでしょう。もし過ちを犯してしまうとすれば、恵みが豊か過ぎて過ちを犯す側となりましょう。決して間違うことはありません。そして、ここからが本題です。恵みのこととなると、神はそれを尊び、祝福されます。なぜなら、それこそが神の御姿であり、神の御心であり、神の恵みだからです。つまり、私たちは最善を尽くそうとします。恵みは、私たちが受けるに値しないものを神が与えてくださることであり、栄光のこちら側で得られるのと同じくらい良いものだと思います。私はそれを受け取ります。しかし、もう一度言います。この言葉が本当に意味するものの表面、表面さえにも、かすりもしません。それは、やはりその性質上、定義できないものなのです。つまり原語で調べることも出来るし、解説書や説明書や定義を全部調べることもできます。しかし、すべてはここに集約されます。それは、神の恵みです。それは神の恵みなのです。神があなたに恵みを与えておられるのです。恵みとは、神があなたにふさわしくないものを与えてくださることだと言われています。私はそれを受け取ります。そして、憐みとは、神があなたにふさわしいものを与えないことです。両方とも受け取ります。どうもありがとうございました。両方必要ですよね？でも、よく考えてみると、すべては共に働くのですそれは、神の恵みと憐みです。さて、もし神が私たちを恵みによって救われ、その恵みを与えてくださったのなら、その恵みを他の人にも示したいと思うのは当然のことではないでしょうか。恵みの側での過ちを後悔したことはありません。私はいつも、恵みの側に立たなかったことを後悔しています。間違いありません。もしかしたら、あなたは今、誰かとの関係で個人的な事情を抱えているかもしれません。恵み、恵みです。神はそれを尊ばれます。それが神の御心だから、神は祝福してくださるのです。恵みを示してください。「いや…しかし何回やればいいのですか？」そして、私たちは歯を食いしばります。まさにこんな感じです。それは恵みではありません。実際に…、間違っていたら訂正してください。ルカの福音書の 7 章と言いたいのですが、多分違うと思いますが、とにかく。イエスがこう仰ったとき、そこは非常に誤解され、実際、お金の文脈として間違って引用されるのです。

「あなたがたが与えるなら、それはあなたがたに与えられ、押し固められ、詰められ、あふれ出る。」（ルカ 6:38 参照）

多くの強欲なテレビ伝道師が、「もしあなたが寄付するなら…」という文脈でこの言葉を使いました。

「今そこにいる誰かが 1,000 ドル寄付すれば、それがあなたの元に戻ってくる。押し寄せ、揺り動かさ

れ、溢れ出すほどに…」イエスは、お金のことを言われているのではありません。憐みのことを言っておられるのです。何ですって？　ええ。つまり、あなたが誰かに憐みを与え、恵みを示すならば、神は心に留めてくださるのです。「あれを見ろ、彼が今したことを見たか？」主はその恵みを、その憐みを、詰め込んで、揺さぶって、もっと入れて、そして、溢れるほどにして、あなたに返してくださるのです。私が憐み深く、恵み深いとき、神は私に対し憐み深く、恵み深くあられます。もしあなたが私のような人なら…そうだと思うのですが…私には神の憐みと恵みが必要なのです。皆さんもそうですよね？だから、そんな霊的な目で私を見ないでください。私たちには神の憐みが必要です。
最後にもう１つ。そして締めくくりたいと思います。今日、ここにいらっしゃる方、あるいはオンラインでご覧になっている方で、非常に困難でつらい状況にあり、ただ励ましを必要としている方がいらっしゃるかもしれません。あなたには希望が必要で、あなたを愛してくれる人が必要で、そして本当に恵みが必要なのです。特に、自分が失敗したために苦境に立たされている場合には。あなたには、本当に恵みが必要なのです。あなたが最もされたくないものは、「叱責」です。私が今まで聞いた中で、最も良い描写は、警察官と救急隊員のものです。あなたが事故を起こしてしまったとします。誰かが赤信号を無視して、交差点で事故が起きてしまいました。そして、現場に到着したのは警察官です。彼らはおもに、誰が法律を破ったのか、誰が赤信号を無視したのかを調べるためにいます。救急隊員は、おもに負傷者の手当をするために現場にいます。こんな風に言われたことがあります。「キリストの体には、あまりにも多くの警察官がいる」と。もちろん警察官を指しているわけではありませんが、言いたいことはわかりますよね。責任の所在を明らかにしたがる人が多すぎるのです。「あなたのせいです！」聞いてください。今は律法の番人は必要としていない。今は、神の恵みに溢れた仕える人が必要なのです。なぜなら、私は今、自分の人生の中で、神がどのように私を導いてくださるのか分からないほど辛い状況の中にいるからです。もし、これを乗り超えるなら、もし…　ー乗り超えた”時”と言うべきでしょうがーしかし、もし私がこれを乗り超えたら…、ーあなたは乗り越えるでしょう。神が乗り越えさせて下さいますー　しかし、それは神の恵みによるものでしかありません。完璧です。他に方法はありますか？　それは神の恵みでしょう。あなたがこの美しい教会の建物に座っているのは、神の恵みによるものなのです。あなたがこれからする呼吸は（あなたが今した呼吸は）神の恵みによるのです、それはすべて恵みです、それはすべて恵みなのです。そして恵み、神の恵みこそが、あなたがどんな状況にあっても乗り越えるさせることができるのです。ああ、なんだかこの書と別れるのは、ほろ苦いですね。しかし、主よ、それで良いのです。
お立ちください。賛美チームに登場してもらいます。あぁ、すべては恵みです。
主よ、私たちが今日ここで聞いた御言葉をそのまま残して、ここに来た時と同じようにここを去ってしまわないように祈ります。しかし、聖霊が私たちの心の奥底に自由に入ってくださいますように。特に心に傷を負っている人たちのために。主よ、私は多くの人が本当に苦しみ、困難や苦難を経験していることを知っています。主よ、あなただけがお出来になられるように、彼らを励まし、希望を与え、あなたの愛を思い出させてくださるよう、ただ祈ります。そして、主よ、恵みを。ああ、恵みを感謝します、神よ。あなたの恵み、驚くべき恵み、驚くべき恵みに感謝します。私たちに今、必要なのはそれです。主よ、あなたに感謝します。この書に感謝します。牧師としての私の人生や、教会としての私たちの人生に影響を与えてくださったことを感謝します。主よ、感謝します、私たちはあなたをとても愛しています。イエスの御名において、アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオへ

http://www.calvarychapelkaneohe.com/

Calvary Chapel Kaneohe47-525Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii　　筆記 hukuinn7